

平成26年度 第2回学校評議員会議事録

日時：平成27年2月25日（火）

14:00～16:00

場所：瓊浦高等学校 会議室

出席者

学校評議員（4名）

河野 英雄 氏 金谷 氏 篠原 順子氏 濱浦 氏

学校関係各分掌長（14名）

校長 副校長 教頭(2名) 事務長 教務副部長 生徒指導部長 就職指導部長

進学指導部長 環境美化部長 保健部長 入試広報部長 学年主任(1・2・3年)

(1) 開会の辞（副校長）

(2) 評議員紹介（副校長）

(3) 校長挨拶（校長）

- ・教育課程の工夫や基礎学力の定着に努め、学力の向上が図れた。現在就職内定率98%、進学内定率も98%を達成した。
- ・東アジア高校生キャリアアップ事業研修へ4名の生徒が参加した。生徒たちの目の色が変わってきていることを実感している。
- ・南高、西陵高校の研究授業へ参加。校内でも研究授業をし、指導助言を受けることでさらなるスキルアップを目指した。
- ・相談室の活用はうまくいっている。相談部員が常時3名駐在し、ケースによっては相談部員が家庭訪問をする様な体制もできた。
- ・来年もJAXAとの連携を深める。

(4) 本校の特色ある取り組みについて

(庶務部)

- ・洋式トイレの改修は1年生棟のみ実施済み。今後も、複数回に分けて企画実施。また、照明のLED化をすすめ、随時変更していく予定である。電気代が上昇している中での40万円の削減ができた。効果が出た。
- ・地区PTAで要望が出た通学路に街路灯の設置をした。耐震の診断については100%診断終了した。
- ・平成26年度から就学支援金制度が変更されたが、うまく連携を取り確実に仕事をこなすことができた。

(教務部)

- ・主体的学習を促すとともに家庭学習の定着を図るために、マナトレへの取組み、欠点者への対応、成績不振者への面接を行った。
- ・公開授業により授業の改善を図った。年間15日間実施することができた。
- ・年間出席率97.4%。昨年より0.5パーセント増加。
- ・開かれた学校づくりを推進し、学校からの情報発信に努めた。その結果、PTA総会については例年に比べて約50%増員した。2年間で倍増している。地区PTAの運営は学校主体からPTA主体への移行を進めた。参加者増加のために開催場所を検討している。

(入試広報)

- ・各分掌、各学年に入試・広報の担当を置き、全ての教師で生徒の募集活動を行った。
- ・各学年に中学校訪問担当及び、各分掌広報担当を配置し、広報活動の効率を上げた。

- ・中学生や保護者に本校の教育活動や魅力を伝えるために学校見学会の充実を図りたい。

(生徒指導部)

- ・3年生を中心に挨拶運動に取り組み、地域から評価を得た。定着をはかっていきたい。②授業の巡視と休み時間などの各教室の巡視を、年度始めに計画し、取り組んだ。
- ・学校行事では生徒会を中心にさらに高い意識を持ち活動していくよう指導していきたい。
- ・ボランティア活動については、生徒会を中心として活動ができたが、一般の生徒の参加は少ない。多くの生徒に参加する機会を設けたい。

(就職指導部)

- ・現在就職率98.2%。2名受験結果待ち。1名はハローワークで活動中。
- ・情報誌を発行する予定であり、継続して取り組んでいきたい。
- ・卒業生講話の機会を増やし、生徒の意識高揚を図りたい。
- ・女子生徒の増加により、女子生徒の進路開拓に取り組む必要がある。

(進学指導部)

- ・家庭学習、補習、模擬試験に力を入れた。学習合宿参加者は例年20名から30名だが、今年度は増加した。しかし、模試に対する意識は低い。検討課題である。
- ・1, 2年生への進路情報データの共有がうまくいかなかった。
- ・進学指導室への教員の常駐ができなかった。体制を考えていきたい。

(保健部)

- ・学校医、学校歯科医との緊密な連携をとり、定期健康診断により疾病の早期発見と早期治療を促した。また、予防的措置の確立を図った。
- ・各学年と連携を深め、学校不適応、長期欠席生徒、発達障害をもつ生徒の発見、状況把握等に努めた。
- ・不登校生への対応は、教育相談室と十分連携を取りながら指導した。また毎月2度スクールカウンセラーによる面談を実施し、教室へ戻れるように指導した。
- ・教育相談体制の充実をはかり、生徒観察の徹底、問題行動の情報共有化等を図り、いじめの防止・早期発見に努めた。
- ・今年度インフルエンザは発生しているものの、大きな流行は避けられた。

(1学年)

- ・朝集会の実施に取り組んだ。毎週始めに実施し、学年団職員が輪番で講話を行った。社会的で品位ある言動を身につけさせるため、学年団をあげて粘り強い指導を継続した。
- ・出席率向上に努めたが、特定の生徒の欠席数が多い(長欠者等)傾向があった。不登校の生徒に対して、教育相談室と協力して取り組んでいきたい。
- ・身だしなみについては、自己の価値観ではなく、瓊浦生として好感が持たれる身だしなみを心がけさせている。瓊浦生としてのプライドを持って行動することを指導した。
- ・学習に関しては、成績下位層に対しての学び直しを充実させた。今後も上位層から下位層までまんべんなく学習指導を充実させていきたい。

(2学年)

- ・若い先生たちとベテランの先生方のいいバランスで学年経営がうまくいった。
- ・修学旅行については被災地へ赴き、他校との交流会、震災学習を実施した。仮設住宅にいて話を聞いたかったという意見もあり、震災についての意識の高まりが見られた。
- ・出席率の向上に努めたが、相談室登校や退学した生徒がいるクラスでは、目標値の98%を下回っているクラスもある。出席率100%を目指して取り組んでいきたい。

- ・瓊浦祭では、各クラスが担任・副担任と一緒に、見ごたえのある制作活動を行った。

(3学年)

- ・号令なしで整列できる意識が高まってきた。相手を尊重した行動がとれるように、教員団がまずは生徒を尊重することを意識して行動した。
- ・2年次から就職模試を継続してきた。全ての試験において学年平均得点率が7割を超えた。2学期中にほぼ9割の生徒が第一目標の合格・内定を受けることができた。
- ・ワンストップ挨拶運動を通して、マナーの大切さを感じることができた。
- ・学級通信と学年通信を継続発行し、保護者からの信頼を得られるように取り組んだ。
- ・学期の始めに朝集会で目標を提示した。学期の最後にその目標が到達されたか確認し、次の学期の目標につなげられるようにした。
- ・三カ年皆勤者が56名、一カ年皆勤者は48名であった。3年間通して出席率98%を達成することができた。

(5) 学校評価アンケートについて

生徒・保護者へ学校評価アンケートを実施し、客観的な評価を行った。評価は、概ね良好であった。

(6) 特色ある学校づくりについて学校評議員からの主な意見

- ・初めて龍馬コースの授業の見学をしたが、熱心に意欲的に取り組んでいた。進学クラスの一步先を目指していることが十分感じられた。
- ・少子化の時代に選択してもらえ学校にならなければならない。そのためには特色ある学校づくりが必要。勉強、部活など選ぶことのできる選択肢をいくつ持っているかが、大前提である。そのための選択肢をいかに充実できるかが一番大きな課題。
- ・瓊浦高校に行きたい、選びたいという学校になってきているのではないか。それが、在学中の生徒の励みになるのではないか。
- ・日常生活の中でゴミのポイ捨て。ゴミはどう処理をすればよいかの原点を教育する必要がある。「ゴミを捨てるな」ではなく「ゴミをどう処理したらいいか」の教育が必要である。押さえつけて言うのではなくどうしたらいいかわかるような教育をして欲しい。
- ・学校評議員になって2年目。最初にHPを拝見したときに原石諸君の文言が目についた。この3年間原石を磨いてダイヤモンドになるという校長の言葉どおりの活躍を、テレビ新聞で見ることができた。
- ・桜ヶ岡を拝見したが、非常に子供たちを励ましている内容である。新聞等に載っている上質なコラムを見ているようだ。品格ある学校に通わせているという意識を保護者に持ってもらう内容だと思う。保健日より内容が充実している。心打たれた内容だった。
- ・地域の年配の方に、最近の瓊浦生はどうかと尋ねると、何をしても必ず挨拶をすることに感心すると答えがあった。また、気になることは、階段に座ってしゃべっていることがあるということだった。ただ、注意すると素直にすいませんと立ち去るということを知った。温かい目で見られている証拠ではないだろうか。
- ・大きな目標を掲げて、一生懸命取り組んだ先生方の情熱と瓊浦高校の素晴らしさを再確認ができた。学力の充実もいいが、社会に対応できる生徒を育てなければいけないという大きな目的がある。学校のスローガンである、全員が部活動で頑張るといことが大事である。
- ・長崎県スポーツ表彰及び長崎市スポーツ賞を濱田和浩君が、長崎市スポーツ賞を卓球男子団体が受賞した。長崎市に貢献しているすばらしい生徒を育てていることの再確認ができた。
- ・来年は瓊浦高校の女子学生が増えるとの報告があったが、女子の部活動がまだまだ充実していない状

況。ぜひ充実させて欲しい。

(7) 閉会の辞